

歴史と伝統文化のまち「成田」には、さまざまな分野で活躍した人や郷土の発展のために尽くした人がたくさんいます。先人たちの生き方からふるさと成田の歴史に触れ、未来へ大きく羽ばたく指標となれば幸いです。

最終回

かしわ ばら あ き こ
柏原安喜子

政治家の妻として

柏原安喜子は、明治16(1883)年に岡山県浅口郡長尾村(現在の岡山県倉敷市)に父田辺禎夫、母松枝の間に生まれた。田辺家は広い農地を所有する地主であり、また、親戚である田辺為三郎が衆議院議員として活動していたことから、地元の名家として知られていた。

明治35年、安喜子は18歳の時に為三郎の紹介で柏原文太郎(広報なりた平成30年9月15日号)と結婚した。夫の文太郎は犬養毅や大隈重信、近衛篤磨などの政治家らと共にアジアの経済や教育などの問題解決に取り組む事業家であった。

明治45年、文太郎が衆議院議員になると、中国の天津や漢口の学校開設に携わることとなった夫と共に現地に行くなど、政治家としての活動を懸命に支えた。

地域社会のために尽力

大正14(1925)年、文太郎が病に倒れると、療養のために夫の故郷である成田町寺台(現在の寺台)に転居した。献身的な看護を続けたが、昭和11(1936)年に文太郎は68歳で亡くなった。

夫の死後しばらくして、安喜子は社会奉仕を行う「成田町婦人報国会」の一員となり、地域の活動に積極的に参加するようになった。昭和17年には「大日本婦人会成田支部」の初代支部



政治家の妻だった当時の出納簿と日記帳

明治16年～昭和42年(1883～1967)

岡山県浅口郡長尾村(現在の岡山県倉敷市)に生まれる。柏原文太郎と結婚し、政治家の妻として夫を支えた。また、成田市連合婦人会会長、保護司として活動したほか、成田保育園の設立に携わるなど、地域振興に大きく貢献した。



長となり、病院への慰問といった奉仕活動や町内会の会合への参加など多岐にわたる活動を行った。

戦後、大日本婦人会が解散すると、女性の地位向上や地域の復興を目的として全国的に婦人会がつくられた。成田でも「成田町婦人会」が結成され、安喜子は会長として活動した。

昭和29年、町村合併により成田市が誕生すると、連合婦人会の結成に尽力した。そして同年、安喜子を会長に「成田市連合婦人会」が誕生した。婦人会では、成田市で初めて敬老会を開催するなど、会長として地域の振興のために精力的に活動した。また同時に、保護司として犯罪や非行に走った人たちを立ち直らせる更生保護の活動を行った。

地域のためにさまざまな活動をする中で、幼児教育の必要性を感じていた安喜子は、保育園の設立に奔走した。そしてその尽力により、昭和30年には市内で初めての保育園となる成田保育園が誕生した。

昭和35年、安喜子は全ての役職を後進に譲り、趣味の琴と孫たちとの余生を楽しんだ。そして同42年、83歳でその生涯を閉じた。現在は、文太郎と共に寺台の永興寺ようこうじに眠っている。

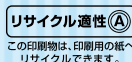
「成田ゆかりの人々」は今号をもって連載を終了します。長い間ご愛読いただき、ありがとうございました。

編集後記

10ページでお知らせした通り、広報課では新たにLINEでの情報発信を開始しました。いざ始めてみると、どんな情報を載せるか、文字数はどれくらいが見やすいか、絵文字を使ったほうが親しみやすいかなど、いろいろと悩んでしまい、情報を発信する難しさを改めて実感。これまで何気なく見ていた企業やお店から届くメッセージをじっくりと読んで、内容や文章を参考にするようになりました。皆さんに役立つ情報を届けていきますので、友達登録してくださいね。

令和2年3月15日号 No.1407

成田市のホームページ

<https://www.city.narita.chiba.jp>

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

広報なりたは、グリーン購入法に基づく基本方針の判断基準を満たす用紙、誰にでも読みやすいUD(ユニバーサルデザイン)フォントを使用しています。

*新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントが中止になる場合があります。くわしくは各ページの問い合わせ先へ